



2023年12月8日(金)
愛知県美術館
担当 石崎、中野
電話 052-971-5511(代表)
愛知県陶磁美術館学芸課
担当 佐久間、大西
電話 0561-84-7474(代表)

愛知県美術館 × 愛知県陶磁美術館 共同企画

コレクションズ・ラリー

愛知県美術館と愛知県陶磁美術館のコレクションを合わせると、その数は17,000件以上にのぼります。本展は、そのなかから両館の4人の学芸員がそれぞれ独自の視点でテーマを立ててご紹介する、オムニバス形式の展覧会です。同じ愛知県立の美術館同士ですが、意外にもこのように大きな規模での共同企画を行うのは初めてのことです。愛知県陶磁美術館が休館中(2025年4月に再開予定)だからこそ実現したこの企画、2館のコレクションが会うことで生まれる作品同士の共鳴を、是非ともお楽しみください。

- 1 会 期** 2024年1月16日(火)から4月14日(日)まで
休館日:毎週月曜日
(ただし、2月12日[月・振休]は開館)、2月13日(火)
- 2 開館時間** 10時から18時まで、金曜日は20時まで
(入館は閉館の30分前まで)
- 3 会 場** 愛知県美術館 [愛知芸術文化センター10階]
(〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2 電話:052-971-5511(代表))
- 4 アクセス** 地下鉄東山線・名城線「栄」駅/名鉄瀬戸線「栄町」駅下車、
オアシス21連絡通路利用徒歩3分
- 5 出品点数** 約150点(企画の構成は別紙のとおり)

- 6 観覧料** 一般 500 円 (400 円)、高大生 300 円 (240 円)、中学生以下無料
※ () 内は 20 名以上の団体料金です。
※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳 (愛護手帳)、
特定医療費受給者証 (指定難病) のいずれかをお持ちの方は、無料
でご観覧いただけます。また付き添いの方は、各種手帳 (「第 1 種」
もしくは「1 級」) または特定医療費受給者証 (指定難病) をもち
の場合、いずれも 1 名まで無料でご観覧いただけます。当日会場で
各種手帳 (ミライロ ID 可) または特定医療費受給者証 (指定難病)
をご提示ください。付き添いの方はお申し出ください。
※学生の方は当日会場で学生証をご提示ください。

7 関連事業

トークラリー (学芸員による展示説明会)

日 時：2024 年 1 月 21 日 (日)、2 月 10 日 (土)、4 月 6 日 (土)

各回 11 時から 12 時まで

3 月 8 日 (金) 18 時 30 分から 19 時 30 分まで

会 場：愛知県美術館展示室内

定 員：各回 30 名 (当日先着順)、事前申込不要

参加費：無料 (ただし、本展観覧券が必要です)

※観覧券をお持ちの上、開始時刻に美術館ロビーにお集まりください。

- 8 主 催** 愛知県美術館、愛知県陶磁美術館

9 問合せ先

愛知県美術館

学芸担当 石崎・中野 広報担当 宮谷

〒461-8525 愛知県名古屋市東区東桜 1-13-2

電 話：052-971-5511 (代表)

F A X：052-971-5604

メー ル：art11@aac.pref.aichi.jp

公式 Web ページ：<https://www-art.aac.pref.aichi.jp/>

愛知県陶磁美術館 学芸課

担当 佐久間・大西

〒489-0965 愛知県瀬戸市南山口町 234 番地

電 話：0561-84-7474 (代表)

F A X：0561-84-4932

メー ル：touji@pref.aichi.lg.jp

公式 Web ページ：<https://www.pref.aichi.jp/touji/>

[企画の構成]

第1章 JOMON

日本のやきもの史上、最古にして最大の人気を誇る縄文土器。その造形のどんどころに人々は惹きつけられるのか、土、形、紋様などの視点からその魅力を探りつつ、共鳴する作品とともに楽しみます。



《深鉢》縄文時代中期(紀元前 30~20 世紀) 愛知県陶磁美術館蔵(工藤吉郎氏寄贈)



浅井裕介《その島にはまだ言葉がありませんでした》2020年 愛知県美術館蔵

第2章 うーまんめいど

映像作家・出光真子の著書『ホワット・ア・うーまんめいど』に着想を得たこの章では女性作家による作品を特集します。また、近年の両館の新収蔵作品も展示いたします。



横田典子《ツチ・ビトー輪ー》2021年 愛知県陶磁美術館蔵
撮影：横山将基



前本彰子《Silent Explosion——夜走る異国の径》1988年 愛知県美術館蔵

第3章 ハードロック／ヘヴィメタル

硬い岩と重金属をあえて直訳したこの章では、文字通りゴツゴツした物質感や、重さや硬さなどを想像させる作品が並びます。



中村錦平《鳴キノボルハ内面構図》1991年
愛知県陶磁美術館蔵



久野真《鋼鉄による作品 #272》1975年
愛知県美術館蔵

第4章 祈り

展覧会を締めくくるこの章では、仏教美術や墓の副葬品などを通して、作品に込められた祈りや死後の世界に対する人々の想いについて考えてみます。



重要文化財《五輪塔形経筒外容器》平安時代末期
(久安2年：1146年) 愛知県陶磁美術館蔵



熊谷守一《地藏菩薩》1959年 愛知県美術館蔵（木村定三コレクション）

※広報用の高精細画像につきましては、愛知県美術館広報担当までお問い合わせください。

※広報用画像の掲載にあたっては、キャプションを明記してください。